

1 次の問い(問1、2)の各枠に当てはまる符号または数字をマークせよ。

問1 関数 $f(x) = (1-x)e^{1-x}$ は $x = \boxed{1}$ のとき最小値 $\frac{\boxed{2}\boxed{3}}{\boxed{4}}$ をとり、

$y = f(x)$ の変曲点は $(\boxed{5}, \frac{\boxed{6}\boxed{7}}{\boxed{8}})$ である。

問2 座標平面上の3つの曲線

$$C_1: x^2 - x + y^2 = 2 \quad (y \geq 0)$$

$$C_2: x = \cos \theta, \quad y = \sin \theta \quad (0 \leq \theta \leq \pi)$$

$$C_3: y = \sqrt{-x^2 + 2x}$$

で囲まれる図形の面積は $\frac{\boxed{9}\boxed{10}}{\boxed{13}}\pi - \frac{\boxed{11}}{\boxed{14}}\sqrt{\boxed{12}}$ である。

解説

問1 $f(x) = (1-x)e^{1-x}$ より

$$f'(x) = (x-2)e^{1-x}$$

$$f''(x) = (3-x)e^{1-x}$$

より、増減表は以下のようになる。

| | | | | | |
|----------|---|----------------|---|------------------|---|
| x | | 2 | | 3 | |
| $f'(x)$ | - | 0 | + | + | + |
| $f''(x)$ | + | + | + | 0 | - |
| $f(x)$ | ↘ | $-\frac{1}{e}$ | ↗ | $-\frac{2}{e^2}$ | ↗ |

よって、 $x=2$ で極小値 $-\frac{1}{e}$

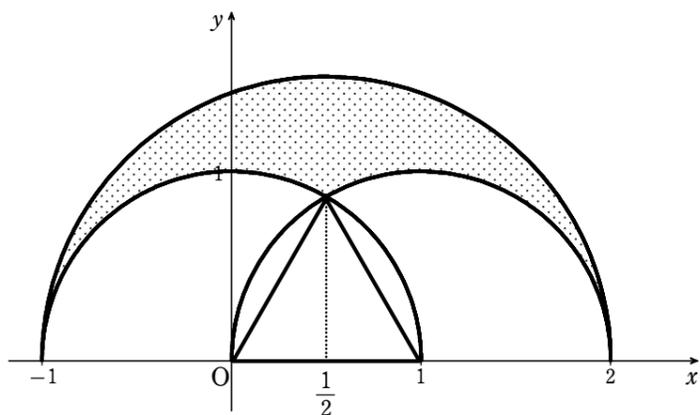
変曲点の座標は $(3, -\frac{2}{e^2})$

問2 $C_1: (x - \frac{1}{2})^2 + y^2 = \frac{9}{4} \quad (y \geq 0)$

$$C_2: x^2 + y^2 = 1 \quad (y \geq 0)$$

$$C_3: (x-1)^2 + y^2 = 1 \quad (y \geq 0)$$

となるので、求める部分の面積は、図の打点部分である。



原点と $(1, 0)$ 、 $(\frac{1}{2}, \frac{\sqrt{3}}{2})$ で作られる三角形が、1辺が1の正三角形ということも考慮して、求める部分の面積を S とおくと

$$S = \pi \cdot \left(\frac{3}{2}\right)^2 \times \frac{1}{2} - 2 \times \left(\pi \cdot 1^2 \times \frac{\frac{2}{3}\pi}{2\pi}\right) - \frac{1}{2} \cdot 1^1 \cdot \sin \frac{\pi}{3}$$

$$= \frac{11\pi - 6\sqrt{3}}{24}$$

2 次の文章を読み、後の問い(問1~3)の各枠に当てはまる符号または数字をマークせよ。

$$f(x) = x^3 - \frac{4}{3}x$$

とする。

問1 曲線 $y = f(x)$ と y 軸の交点 A におけるこの曲線の法線の傾きは $\frac{\boxed{15}}{\boxed{16}}$ である。

問2 $t \neq 0$ とする。曲線 $y = f(x)$ 上の点 $P(t, f(t))$ における $y = f(x)$ の接線 l がこの曲線と交わる点を $Q(q, f(q))$ とする。ただし、 Q は P と異なる。このとき、

$q = \boxed{17}\boxed{18}t$ である。

問3 Q における $y = f(x)$ の接線 l' が l と直交するとき、 $t = \pm \sqrt{\frac{\boxed{19}\boxed{20}}{\boxed{21}}}$ である。

解説

問1 $f(x) = x^3 - \frac{4}{3}x$ と y 軸との交点 A は $(0, 0)$ で、 $f'(x) = 3x^2 - \frac{4}{3}$ より

$$A \text{ における法線の傾きは、 } -\frac{1}{f'(0)} = \frac{3}{4}$$

問2 y 軸平行な接線は存在しないので、接線を $y = mx + n$ とおくと $y = f(x)$ と $y = mx + n$ は $x = t$ で接し、 $x = q$ で交わるので

$$f(x) = mx + n$$

$$\therefore x^3 - \left(m + \frac{4}{3}\right)x = 0$$

より、これが、 $x = t$ 、 t 、 q を解にもつことになる。

よって、解と係数の関係より

$$t + t + q = 0$$

$$\therefore q = -2t$$

別解 P における $y = f(x)$ の接線は、 y 軸平行にはならないので

$$y = \left(3t^2 - \frac{4}{3}\right)(x - t) + t^3 - \frac{4}{3}t$$

$$\therefore y = \left(3t^2 - \frac{4}{3}\right)x - 2t^3$$

これが、 $y = f(x)$ と交わるので

$$x^3 - \frac{4}{3}x = \left(3t^2 - \frac{4}{3}\right)x - 2t^3$$

$$\therefore x^3 - 3t^2x + 2t^3 = 0$$

$$\therefore (x - t)^2(x + 2t) = 0$$

$$\therefore x = t, -2t$$

よって、 $q = -2t$

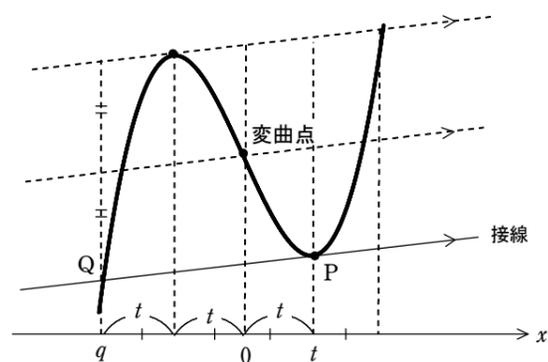
別解 3次関数は変曲点に関して点対称で、下図のように等間隔になっている。

$$f''(x) = 6x \text{ より}$$

$x = 0$ の前後で符号変化するので、 $(0, f(0))$ が変曲点となる。

よって、3次関数のグラフの性質より

交点 Q の x 座標 q は、図より、 $q = -2t$



問3 $l' \perp l$ より

$$f'(t) \times f'(-2t) = -1$$

$$\therefore \left(3t^2 - \frac{4}{3}\right) \times \left(12t^2 - \frac{4}{3}\right) = -1$$

$$\therefore 36t^4 - 20t^2 + \frac{25}{9} = 0$$

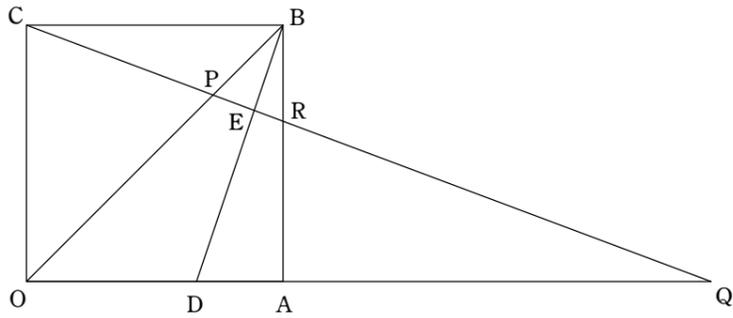
$$\therefore \left(6t^2 - \frac{5}{3}\right)^2 = 0$$

$$\therefore t^2 = \frac{5}{18}$$

$$\therefore t = \pm \sqrt{\frac{10}{6}}$$

3 次の文章を読み、後の問い（問1～4）の各枠に当てはまる符号または数字をマークせよ。

図のような $OA=3$ 、 $OC=2\sqrt{2}$ である長方形 $OABC$ がある。線分 OA を $2:1$ に内分する点を D 、線分 DB を $2:1$ に内分する点を E とする。 OB と CE の交点を P とする。



問1 \vec{OE} は

$$\vec{OE} = \frac{1}{22} \left(\boxed{23} \vec{OB} + \boxed{24} \vec{OD} \right)$$

であり、 \vec{OP} は

$$\vec{OP} = \frac{\boxed{25}}{\boxed{26} \boxed{27}} \vec{OB}$$

である。

問2 CP の延長と OA の延長が交わる点を Q とすると、 Q は OA を $\frac{\boxed{28}}{\boxed{29}}$: 1 に外分する。

問3 PQ と AB の交点を R とする。このとき、 \vec{CP} と \vec{DB} の内積 $\vec{CP} \cdot \vec{DB} = \boxed{30}$ なので、

$$\angle BER = \frac{\boxed{31}}{\boxed{32}} \pi$$

である。

問4 $\triangle AQR$ と $\triangle ABD$ の面積比は

$$\frac{\triangle AQR}{\triangle ABD} = \frac{\boxed{33} \boxed{34}}{\boxed{35}}$$

である。

【解説】

問1 線分 DB を $2:1$ に内分する点が E より、 $\vec{OE} = \frac{1}{3}(\vec{2OB} + \vec{OD})$

$OA \parallel BC$ より

$\triangle EDQ \sim \triangle EBC$ で相似比は $2:1$ より、 $AQ=5$

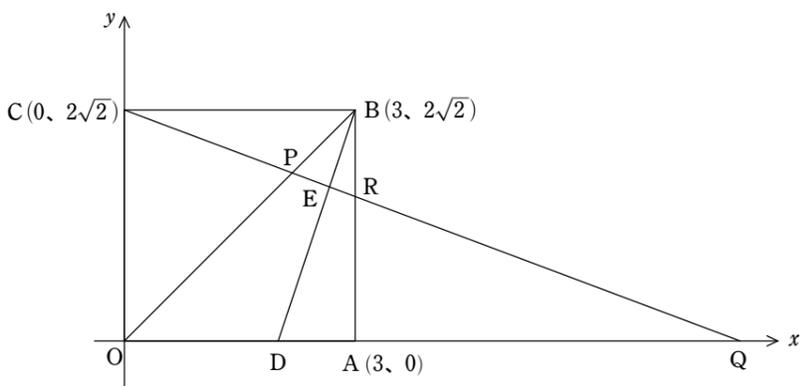
よって、メネラウスの定理より

$$\begin{aligned} \frac{OQ}{QD} \cdot \frac{DE}{EB} \cdot \frac{BP}{PO} &= 1 \\ \therefore \frac{8}{6} \cdot \frac{2}{1} \cdot \frac{BP}{PO} &= 1 \\ \therefore \frac{BP}{PO} &= \frac{3}{8} \end{aligned}$$

よって、 $OP:PB=8:3$ より、 $\vec{OP} = \frac{8}{11} \vec{OB}$

【別解】 座標の利用

$O(0,0)$ 、 $A(3,0)$ 、 $B(3,2\sqrt{2})$ 、 $C(0,2\sqrt{2})$ と座標を設定すると



線分 DB を $2:1$ に内分する点が E より、 $E\left(\frac{8}{3}, \frac{4\sqrt{2}}{3}\right)$

$$\text{よって、直線 } CP: y = \frac{\frac{4}{3}\sqrt{2} - 2\sqrt{2}}{\frac{8}{3} - 0}x + 2\sqrt{2} = -\frac{\sqrt{2}}{4}x + 2\sqrt{2}$$

直線 $OB: y = \frac{2\sqrt{2}}{3}x$ との交点 P は

$$\begin{aligned} \frac{2\sqrt{2}}{3}x &= -\frac{\sqrt{2}}{4}x + 2\sqrt{2} \\ \therefore x &= \frac{24}{11} \end{aligned}$$

よって、 $P\left(\frac{24}{11}, \frac{16\sqrt{2}}{11}\right)$ となる。

これより、 $OP:PB = \frac{24}{11} : 3 - \frac{24}{11} = 8:3$ より、 $\vec{OP} = \frac{8}{11} \vec{OB}$

【別解】 ベクトルの利用 (\vec{OP} を 2 通りで表す)

(i) O, P, B は同一直線上より

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= k\vec{OB} \quad (k \text{ は実数}) \\ &= k(\vec{OA} + \vec{OC}) \\ &= k\vec{OA} + k\vec{OC} \quad \dots\dots\dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

(ii) $CP:PE=t:1-t (0 < t < 1)$ とおくと

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= t\vec{OE} + (1-t)\vec{OC} \\ &= \frac{t}{3}(\vec{2OB} + \vec{OD}) + (1-t)\vec{OC} \\ &= \frac{t}{3}(\vec{2OB} + \vec{OD}) + (1-t)\vec{OC} \\ &= \frac{t}{3}\left\{2(\vec{OA} + \vec{OC}) + \frac{2}{3}\vec{OA}\right\} + (1-t)\vec{OC} \\ &= \frac{8}{9}t\vec{OA} + \left(1 - \frac{t}{3}\right)\vec{OC} \quad \dots\dots\dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

\vec{OA} と \vec{OC} は一次独立より、①、② から

$$\begin{cases} k = \frac{8}{9}t \\ k = 1 - \frac{t}{3} \end{cases} \text{ より、} \begin{cases} k = \frac{8}{11} \\ t = \frac{9}{11} \end{cases}$$

よって、 $\vec{OP} = \frac{8}{11} \vec{OB}$

問2 $OA \parallel BC$ より

$\triangle EDQ \sim \triangle EBC$ で相似比は $2:1$ より、 $AQ=5$

よって、 Q は OA を $8:5$ に外分する点となるので、 $\frac{8}{5}:1$

【別解】 座標の利用

直線 $CP: y = -\frac{\sqrt{2}}{4}x + 2\sqrt{2}$ と x 軸の交点が Q より

$$\begin{aligned} -\frac{\sqrt{2}}{4}x + 2\sqrt{2} &= 0 \\ \therefore x &= 8 \end{aligned}$$

よって、 $Q(8,0)$ となる。

これより、 Q は OA を $8:5$ に外分する点となるので、 $\frac{8}{5}:1$

【別解】 ベクトルの利用 (\vec{OQ} を 2 通りで表す)

(i) O, A, Q は同一直線上より

$$\vec{OQ} = \ell\vec{OA} \quad (\ell \text{ は実数}) \quad \dots\dots\dots \textcircled{3}$$

(ii) C, P, Q は同一直線上より

$$\begin{aligned} \vec{OQ} &= \vec{OC} + s\vec{CP} \quad (s \text{ は実数}) \\ &= \vec{OC} + s(\vec{OP} - \vec{OC}) \\ &= s\vec{OP} + (1-s)\vec{OC} \\ &= \frac{8}{11}s\vec{OB} + (1-s)\vec{AB} \\ &= \frac{8}{11}s\vec{OB} + (1-s)(\vec{OB} - \vec{OA}) \\ &= -(1-s)\vec{OA} + \left(1 - \frac{3}{11}s\right)\vec{OB} \quad \dots\dots\dots \textcircled{4} \end{aligned}$$

\vec{OA} と \vec{OB} は一次独立より、③、④ から

$$\begin{cases} \ell = -(1-s) \\ 0 = 1 - \frac{3}{11}s \end{cases} \text{ より、} \begin{cases} \ell = \frac{8}{3} \\ s = \frac{11}{3} \end{cases}$$

よって、 $\vec{OQ} = \frac{8}{3} \vec{OA}$ より、 $OQ:OA=8:3$

これより、 Q は OA を $8:5$ に外分する点となるので、 $\frac{8}{5}:1$

問3 $\vec{CP} = \vec{OP} - \vec{OC}$

$$\begin{aligned} &= \frac{8}{11}\vec{OB} - \vec{OC} \\ &= \frac{8}{11}(\vec{OA} + \vec{AB}) - \vec{OC} \\ &= \frac{8}{11}(\vec{OA} + \vec{OC}) - \vec{OC} \\ &= \frac{8}{11}\vec{OA} - \frac{3}{11}\vec{OC} \end{aligned}$$

$\vec{DB} = \vec{OB} - \vec{OD}$

$$\begin{aligned} &= (\vec{OA} + \vec{OC}) - \frac{2}{3}\vec{OA} \\ &= \frac{1}{3}\vec{OA} + \vec{OC} \end{aligned}$$

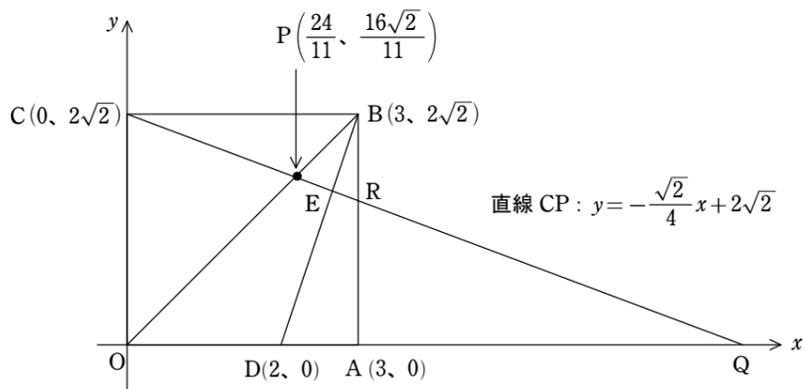
OA ⊥ OC より、 $\vec{OA} \cdot \vec{OC} = 0$

よって

$$\begin{aligned} \vec{CP} \cdot \vec{DB} &= \left(\frac{8}{11}\vec{OA} - \frac{3}{11}\vec{OC}\right) \cdot \left(\frac{1}{3}\vec{OA} + \vec{OC}\right) \\ &= \frac{8}{11} \cdot \frac{1}{3} |\vec{OA}|^2 - \frac{3}{11} |\vec{OC}|^2 \\ &= \frac{8}{11} \cdot \frac{1}{3} \cdot 3^2 - \frac{3}{11} \cdot (2\sqrt{2})^2 \\ &= \frac{24}{11} - \frac{24}{11} \\ &= 0 \end{aligned}$$

よって、 $\angle BER = \frac{1}{2}\pi$

別解 座標の利用



$$\vec{CP} = \begin{pmatrix} \frac{24}{11} - 0 \\ \frac{16\sqrt{2}}{11} - 2\sqrt{2} \end{pmatrix} = \frac{6}{11} \begin{pmatrix} 4 \\ -\sqrt{2} \end{pmatrix}$$

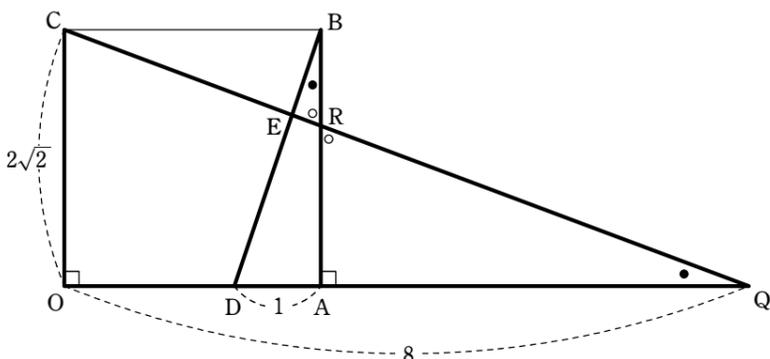
線分 OA を 2 : 1 に内分する点が D より、D(2, 0)

$$\text{よって、}\vec{DB} = \begin{pmatrix} 3-2 \\ 2\sqrt{2} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2\sqrt{2} \end{pmatrix}$$

$$\text{これより、}\vec{CP} \cdot \vec{DB} = \frac{6}{11} \begin{pmatrix} 4 \\ -\sqrt{2} \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 1 \\ 2\sqrt{2} \end{pmatrix} = 0$$

よって、 $\angle BER = \frac{1}{2}\pi$

別解 相似の利用



$$DA : AB = 1 : 2\sqrt{2}$$

$$CO : OQ = 2\sqrt{2} : 8 = 1 : 2\sqrt{2}$$

また、 $\angle COQ = \angle DAB = \frac{\pi}{2}$ より

$$\triangle COQ \sim \triangle DAB$$

よって、 $\angle OQC = \angle ABD$

また、 $\angle QRA = \angle BRE$ より、 $\triangle AQR \sim \triangle EBR$ となるので

$$\angle BEQ = \angle QAR = \frac{\pi}{2}$$

よって、 $\angle BER = \frac{1}{2}\pi$

問4 $\triangle AQR$ と $\triangle ABD$ はともに直角三角形で、 $\triangle AQR \sim \triangle QOC$ で相似比が

$$5 : 8 \text{ より、} AR = \frac{5}{8}OC = \frac{5}{8}AB \text{ より}$$

$$\begin{aligned} \frac{\triangle AQR}{\triangle ABD} &= \frac{AQ \times AR}{AB \times AD} \\ &= \frac{\frac{5}{3}OA \times \frac{5}{8}AB}{AB \times \frac{1}{3}OA} \\ &= \frac{25}{8} \end{aligned}$$

4 次の文章を読み、後の問い（問1～4）の各枠に当てはまる符号または数字をマークせよ。

赤色と黄色と無色透明なセロハンがこの順に5:3:2の割合で袋の中に詰められている。A、B、C、Dの4人がこの中から無作為にセロハンを2枚ずつ取り出す。袋の中のセロハンをよく混ぜられており、取り出すときに何色のセロハンか判別できない。また、袋の中のセロハンは十分に多いので、セロハンを取り出した後も、3種類のセロハンの割合は変化しないと考える。

取り出した2枚のセロハンを重ねて色を観察すると、赤色同士のセロハンが重なる場合と赤色と無色のセロハンが重なる場合はともに赤色に見える。同様に、黄色のセロハン同士が重なる場合と、黄色と無色のセロハンが重なる場合はともに黄色に見える。赤色と黄色のセロハンが重なる場合はだいたい色に見える。

問1 Aが取り出した2枚のセロハンを重ねると赤色に見える確率は $\frac{\boxed{36}}{\boxed{37} \boxed{38}}$

である。

問2 Aが取り出した2枚のセロハンを重ねると赤色に見えた。このとき、取り出した

セロハンが両方とも赤色である確率は $\frac{\boxed{39}}{\boxed{40}}$ である。

問3 Bが取り出した2枚のセロハンを重ねると赤色に見えた。この2枚のセロハン

から1枚を無作為に選んだとき、無色のセロハンが選ばれる確率は $\frac{\boxed{41}}{\boxed{42}}$ である。

問4 Cが取り出した2枚のセロハンを重ねると赤色に見え、Dが取り出した2枚のセロハンを重ねると黄色に見えた。この後、Cが取り出したセロハンから1枚を無作為に選び、Dが取り出したセロハンからも1枚を無作為に選んで、この2枚を重ねた。

このとき、だいたい色に見える確率は $\frac{\boxed{43}}{\boxed{44}}$ である。

解説

問1 Aが赤色を2枚、または赤色と無色を1枚ずつ取り出すときより、求める確率は

$$\left(\frac{5}{10}\right)^2 + {}_2C_1 \left(\frac{5}{10}\right) \left(\frac{2}{10}\right) = \frac{9}{20}$$

問2 問1より、求める確率は

$$\frac{\left(\frac{5}{10}\right)^2}{\frac{9}{20}} = \frac{5}{9}$$

問3 2枚のセロハンが赤色に見える確率は、問1と同様で、 $\frac{9}{20}$

2枚のセロハンを重ねると赤色に見え、かつこの2枚のセロハンから1枚を無作為に選んだとき、無色のセロハンが選ばれる確率は

$${}_2C_1 \left(\frac{5}{10}\right) \left(\frac{2}{10}\right) \times \frac{1}{2} = \frac{1}{10}$$

よって、求める確率は

$$\frac{\frac{1}{10}}{\frac{9}{20}} = \frac{2}{9}$$

問4 Cが取り出した2枚のセロハンが赤色に見える確率は、問1と同様で、 $\frac{9}{20}$

Dが取り出した2枚のセロハンが黄色に見える確率は

$$\left(\frac{3}{10}\right)^2 + {}_2C_1 \left(\frac{3}{10}\right) \left(\frac{2}{10}\right) = \frac{21}{100}$$

よって、Cが取り出した2枚のセロハンが赤色に見えかつ、Dが取り出した2枚のセロハンが黄色に見える確率は

$$\frac{9}{20} \times \frac{21}{100} = \frac{9 \times 21}{2000}$$

Cが取り出した2枚のセロハンを重ねると赤色に見え、かつこの2枚のセロハンから1枚を無作為に選んだとき、赤色のセロハンが選ばれる確率は

$$\left(\frac{5}{10}\right)^2 \times 1 + {}_2C_1 \left(\frac{5}{10}\right) \left(\frac{2}{10}\right) \times \frac{1}{2} = \frac{7}{20}$$

Dが取り出した2枚のセロハンを重ねると黄色に見え、かつこの2枚のセロハンから1枚を無作為に選んだとき、黄色のセロハンが選ばれる確率は

$$\left(\frac{3}{10}\right)^2 \times 1 + {}_2C_1 \left(\frac{3}{10}\right) \left(\frac{2}{10}\right) \times \frac{1}{2} = \frac{3}{20}$$

よって、C、Dがそれぞれ取り出した2枚のセロハンから1枚ずつ無作為に選んだ2枚のセロハンがだいたい色に見える確率は

$$\frac{7}{20} \times \frac{3}{20}$$

よって、求める確率は

$$\frac{\frac{7}{20} \times \frac{3}{20}}{\frac{9 \times 21}{2000}} = \frac{5}{9}$$